

新型コロナウイルス感染症関連での食肉業界の状況等

公益財団法人日本食肉流通センター

新型コロナウイルス感染症関連で、食肉業界をめぐる状況、国産食肉の部分肉価格及び牛肉輸出について、今年8月11日に1回目をホームページで公表しましたが、今回、2回目を、1回目と同様に、食肉卸売業者への聴取等を行い、結果をまとめたのが、以下のAのとおりです。

また、当センターの公表資料や貿易統計から判明したことは、B及びCのとおりです。

A 食肉業界をめぐる状況等

当センターの出店者および関係する企業等（計18の会社・団体）から、主として新型コロナウイルス感染症関連での食肉業界をめぐる状況等について、当センターの職員が11月中旬から12月上旬に聴取等をした結果、概要は以下のとおりです。大部分が神奈川県川崎市周辺の業者からの聴取であることを考慮願います。

1 食肉業界をめぐる状況

ア 食肉業界をめぐる状況

今年2月から、インバウンド、外食機会および牛肉輸出の減少が重なり、国内の食肉に対する需要が外食から中食・内食へ移行する割合が高まりました。

特に、緊急事態宣言下の4～5月では、店内で飲食する外食への影響が大きく、和牛肉を始めとする高価格な食肉への需要が減少した一方、豚肉への需要が高まったため、食肉の卸売価格は、和牛肉が大きく下落し、豚肉が上昇しました。その後、政府の食肉消費を促進する支援策や牛肉輸出が回復から増加に転じたことなどもあって、直近では牛肉価格は昨年と同等程度に回復し、豚肉価格も軟調気味になりました。

この結果、外食への販売依存度が高い社ほど、売上減少が直近まで継続しています。

和牛の高価格部位は、ホテルでの需要減等による販売不振が継続しており、輸出が増加に転じたものの価格は昨年を下回って推移しています。

豚枝肉価格は、直近では軟調になったので、卸売業者は利益率が回復することを期待しています。

複数の社によれば、直近の牛肉相場は、実需に基づくものではなく、政府のコロナ対策等に支えられたものという見方が出されており、今後、政府による対策の動向によっては需要の回復がすぐに見込めないで牛・豚肉の価格が下落するおそれがあると懸念する社も数社ありました。

また、内食需要の増加の継続及び年末の需要期を迎えた中で、鳥インフルエンザの発生が国内で拡大しているため、直近では、鶏肉の価格が上昇していますが、今後もこうした状況が継続すれば、来年2月以降豚肉価格が上昇する可能性があると考える社も複数ありました。

イ 食肉卸売業社のコロナ禍下での対応事例

- 政府によるコロナウィルス感染症関連対策への申請・参加等
 - ・農水省 国産農林水産物等販売促進緊急対策事業、和牛肉保管在庫支援緊急対策事業
新規に和牛肉を学校給食に提供、農業団体等と連携した牛肉の販売促進。
販売不振の高価格部位を凍結・保管。12月には一部販売予定。
 - ・他省庁の事業
持続化給付金、家賃支援給付金等を申請等。
- 和牛の部分肉価格の比価の調整
和牛のヒレやロインの高価格部位の部分肉セット価格に対する比価を引下げ、モモなどの従来の低価格部位の比価を引上げ。
高価格部位の売れ行き不振が長期化するのを見込んでの対応。
- 外食向け部分肉スペック(規格等)を量販店向けに仕様を変更
販売不振な外食から好調な量販店への販売を強化するため、量販店にスペックの変更を提案したところ、一部、了承され、売り上げに貢献。
- 密を回避したドライブスルー形式の販売
異業種と同一地域で5月末から継続、販売が好調。
- ふるさと納税、通販の活用。
- 異業種との連携新業態の焼き肉店舗の創設
居酒屋チェーンの既存店舗の焼き肉店舗への改装、1人客用焼き肉店舗の創設。

2 卸売業者の主な販売先での販売動向

月 販売先	1 ～ 6月	7 ～ 9月	10月
外 食 全 体	3月以降減、4月が4割減の底	15%減	6%減
うち			
洋風ファストフード	テイクアウト等活用 減少率少	7月以降は昨年比で増加	9%増
焼き肉店	4月 7割減の底、6月以降外食全体より回復早い		9%増
居酒屋	2月から減、4・5月9割減の底	GOTOイート等で一時回復	34%減
大手スーパー 畜産品	1～3月 0%減、4～6月17%増	14%増	11%増
中小スーパー 生鮮畜産	1～3月 7%増、4～6月 16%増	10%増	6%増
食肉専門小売店	牛肉・豚肉 2割程度増	1割程度増	
給 食(食肉関連)			
学校	3～5月給食停止 6月再開 夏休み短縮 8月再開	11月以降一部で和牛・銘柄牛提供開始	
産業	4～5月 3～7割減、	6月以降1～3割減、	一部は輸入食肉に転換
生協・通販(食肉)	食肉関連は対昨年を上回って推移		
国際線機内食(食肉)	国際線中止	食肉関連は9割以上減少が継続	

注1:増減は、対昨年同月比又は同期比

2:外食関係の「増減」は、(一社)日本フードサービス協会の外食産業市場動向調査(全店データ)より算出。

外食全体には、和風ファストフード、中華ファミリーレストラン、パブ、ディナーレストラン、喫茶などを含む。

3:大手スーパーは、日本チェーンストア協会のチェーンストア販売統計(店舗調整前)より算出。

4:中小スーパーは、(一社)全国スーパーマーケット協会のスーパーマーケット販売統計調査(全店)より算出。

5:食肉専門小売店以下は、卸売業者からの聴取。食肉関連に限定した動向。

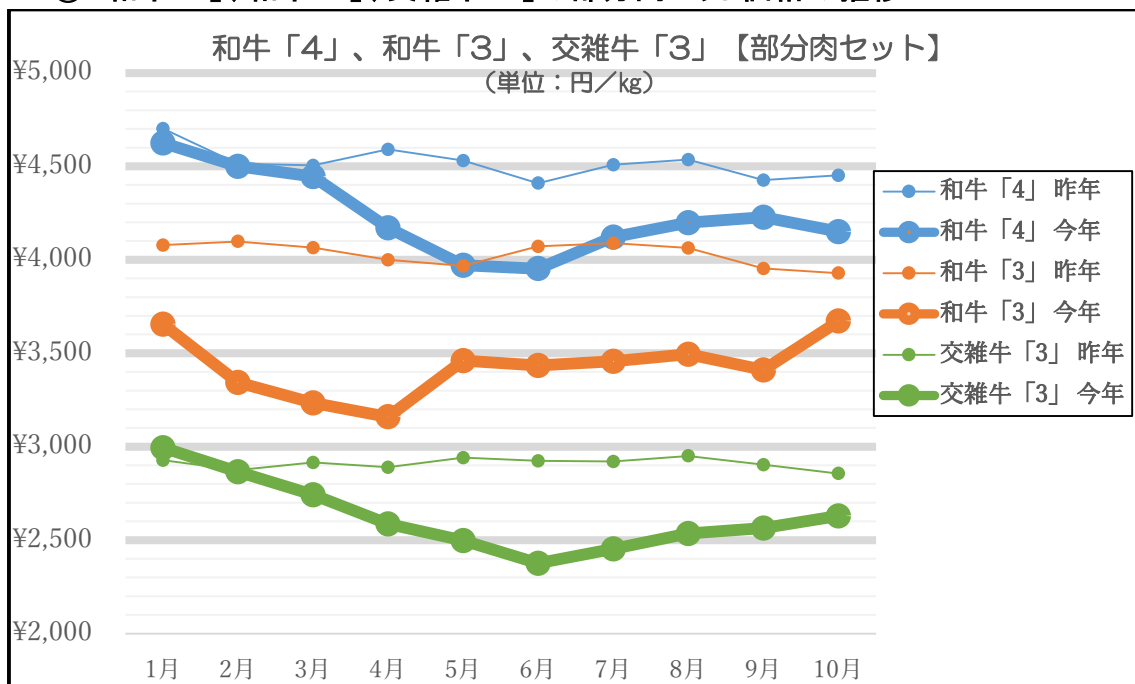
B コロナ禍下の牛・豚の部分肉価格の動向

(公財)日本食肉流通センターで毎月公表している首都圏の牛・豚の部分肉価格(月報価格)が、今年のコロナ禍下でどのように推移したかを分析しました。今年8月に公表して以来、2回目となります。

今回は、今年1月から10月までの価格を昨年と比較しましたが、価格動向は以下のとおりです。

1 牛部分肉価格(首都圏)

① 和牛「4」、和牛「3」、交雑牛「3」の部分肉セット価格の推移



出典：(公財)日本食肉流通センター「公表価格」より算出

部分肉セット価格は、和牛「4」・交雑牛「3」が同じような価格動向でした。

2月は、昨年とほぼ同じ価格でしたが、3月以降に価格の下落が始まり、6月
を底として回復しつつあります。

和牛「4」セット価格については、今年6月、昨年6月の和牛「3」のものを下回る水準まで下落しました。

和牛「3」セット価格については、1月から和牛「4」のものより大きな下落を
続け、4月を底として回復しつつあります。

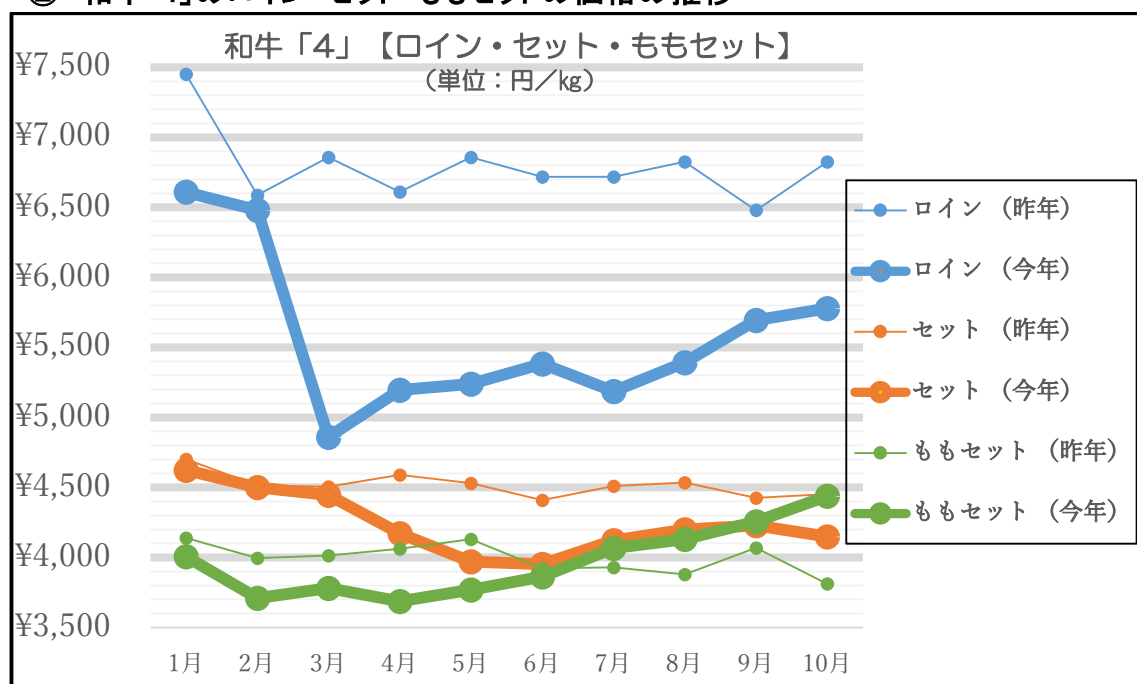
《セット価格》

(単位：円/kg)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
和牛「4」	昨年	4,702	4,514	4,505	4,591	4,530	4,410	4,509	4,536	4,426	4,452
	今年	4,625	4,500	4,445	4,171	3,970	3,953	4,122	4,199	4,228	4,150
和牛「3」	昨年	4,079	4,099	4,064	3,999	3,968	4,072	4,089	4,063	3,953	3,929
	今年	3,655	3,344	3,234	3,160	3,461	3,435	3,456	3,495	3,410	3,672
交雑牛「3」	昨年	2,927	2,875	2,916	2,890	2,942	2,924	2,920	2,951	2,904	2,857
	今年	2,995	2,865	2,742	2,586	2,497	2,376	2,453	2,536	2,565	2,630

出典：(公財)日本食肉流通センター「公表価格」より算出

② 和牛「4」のロイン・セット・ももセットの価格の推移



出典：（公財）日本食肉流通センター「公表価格」より算出

和牛「4」の高価格部位ロイン価格は、3月に大きく下落してその後、回復しつつありますが依然として下落率はセット価格より大きいです。牛肉輸出やホテルの宴会等の需要は、ロインなどの高価格部位が主流ですが、これらが減少したことにより高価格部位の価格下落率がセットや低価格部位のものより大きい傾向が続いています。

低価格部位ももセット価格は、高価格部位のロインやヒレほどの下落率もなく、7月以降は昨年同月比で100%超となっています。これは、和牛「4」の枝肉価格、部分肉セット価格が安くなったことで量販店において和牛の特売などが行われた際、セット価格より安い部位であるもも関連部位が切り落とし材料などに使用され、需要が他の部位より高まったためと考えられます。

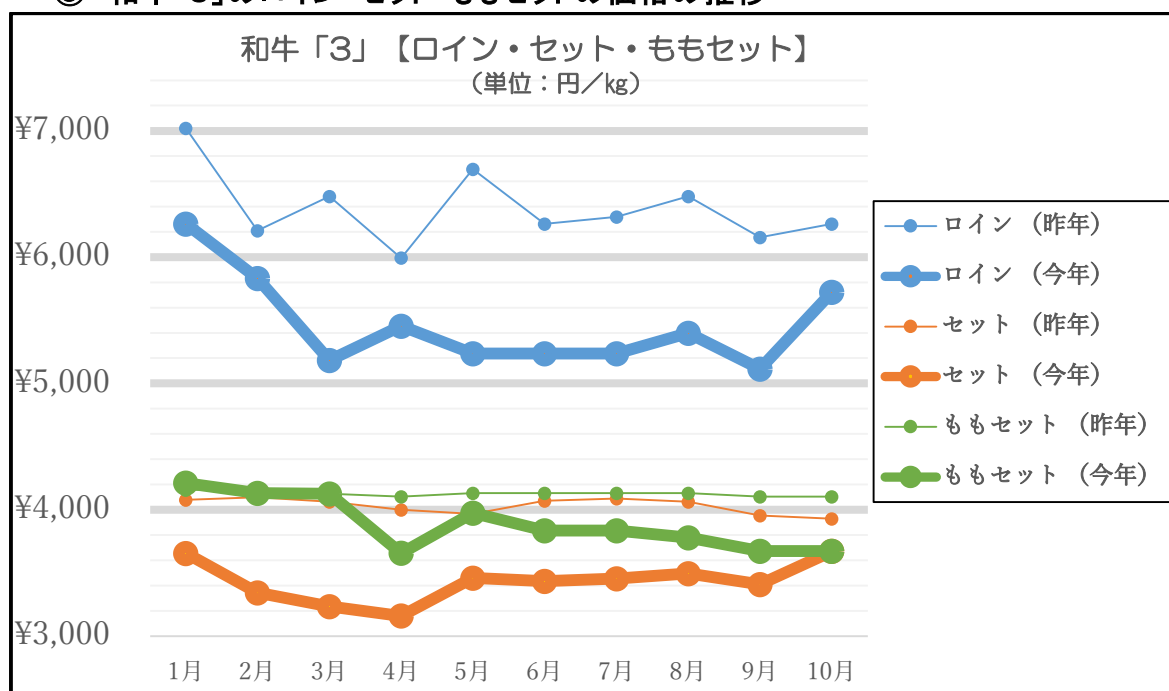
《和牛「4」》

(単位：円/kg)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ロイン	昨年	7,452	6,588	6,858	6,610	6,858	6,718	6,718	6,826	6,480	6,826
	今年	6,610	6,480	4,860	5,195	5,239	5,384	5,186	5,392	5,693	5,778
セット	昨年	4,702	4,514	4,505	4,591	4,530	4,410	4,509	4,536	4,426	4,452
	今年	4,625	4,500	4,445	4,171	3,970	3,953	4,122	4,199	4,228	4,150
ももセット	昨年	4,140	3,996	4,014	4,061	4,131	3,923	3,930	3,879	4,068	3,812
	今年	4,007	3,711	3,780	3,688	3,770	3,864	4,067	4,130	4,256	4,440

出典：（公財）日本食肉流通センター「公表価格」より算出

③ 和牛「3」のロイン・セット・ももセットの価格の推移



出典：（公財）日本食肉流通センター「公表価格」より算出

和牛「3」の高価格部位ロイン価格は、1月からセット価格を超える下落率を続け、5月以降概ね横ばいで推移し、10月になってやや持ち直してきています。

和牛「4」と異なりセット価格より高く推移してきた和牛「3」ももセット価格は、1月から3月は昨年同様の価格をつけていましたが、4月以降下落し、やや回復したもの、10月まで昨年を下回って推移しており和牛「4」のものとは価格動向に差がみられます。

和牛「3」の格付割合が「4」の3分の1程度と少ないため、量販店での特売向けの需要などが「3」は「4」ほど高まらなかったためと考えられます。

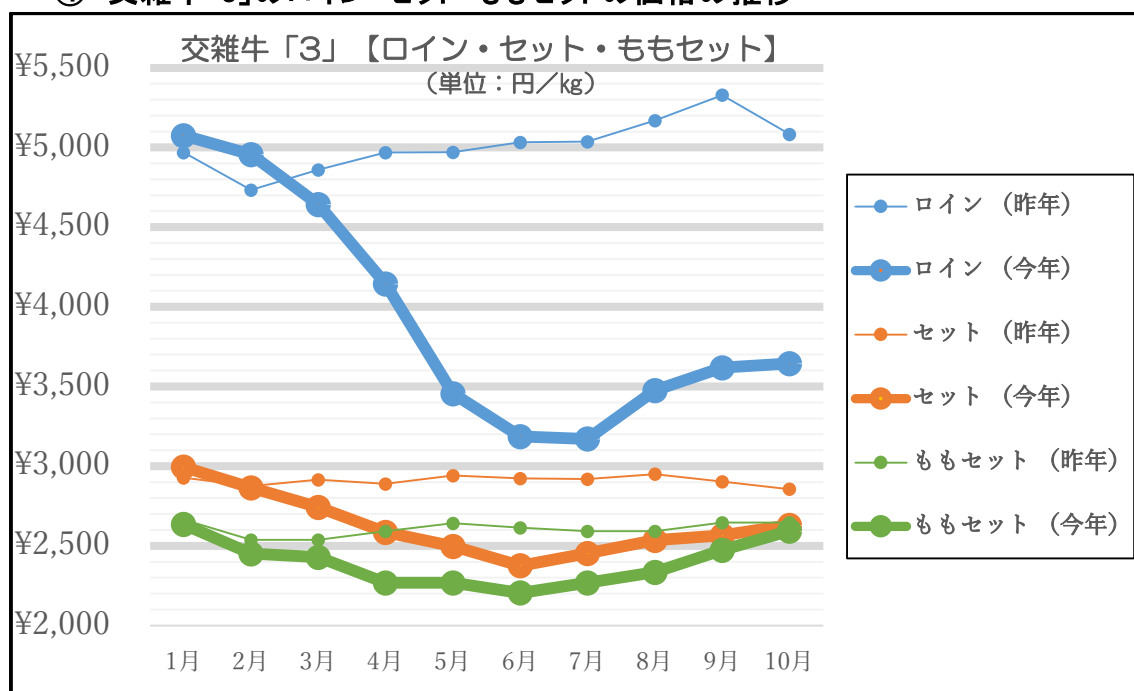
《和牛「3」》

(単位：円/kg)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ロイン	昨年	7,020	6,210	6,480	5,994	6,696	6,264	6,318	6,480	6,156	6,264
	今年	6,264	5,832	5,184	5,454	5,238	5,238	5,238	5,400	5,115	5,724
セット	昨年	4,079	4,099	4,064	3,999	3,968	4,072	4,089	4,063	3,953	3,929
	今年	3,655	3,344	3,234	3,160	3,461	3,435	3,456	3,495	3,410	3,672
ももセット	昨年	4,158	4,166	4,126	4,104	4,131	4,131	4,131	4,131	4,104	4,104
	今年	4,212	4,131	4,126	3,657	3,974	3,834	3,834	3,780	3,672	3,673

出典：（公財）日本食肉流通センター「公表価格」より算出

④ 交雑牛「3」のロイン・セット・ももセットの価格の推移



出典：（公財）日本食肉流通センター「公表価格」より算出

交雑牛「3」の高価格部位ロイン価格は、2月まで昨年を上回っていましたが、その後、急激な下落を続け、8月以降若干の回復をしたものの依然として下落率はセット価格より大きいです。

低価格部位ももセット価格は、下落率はセット価格より小さいものの、1月以降価格を下げつつ6月を底として回復傾向に入り10月にはほぼ昨年同様の価格をつけています。

《交雑牛「3」》

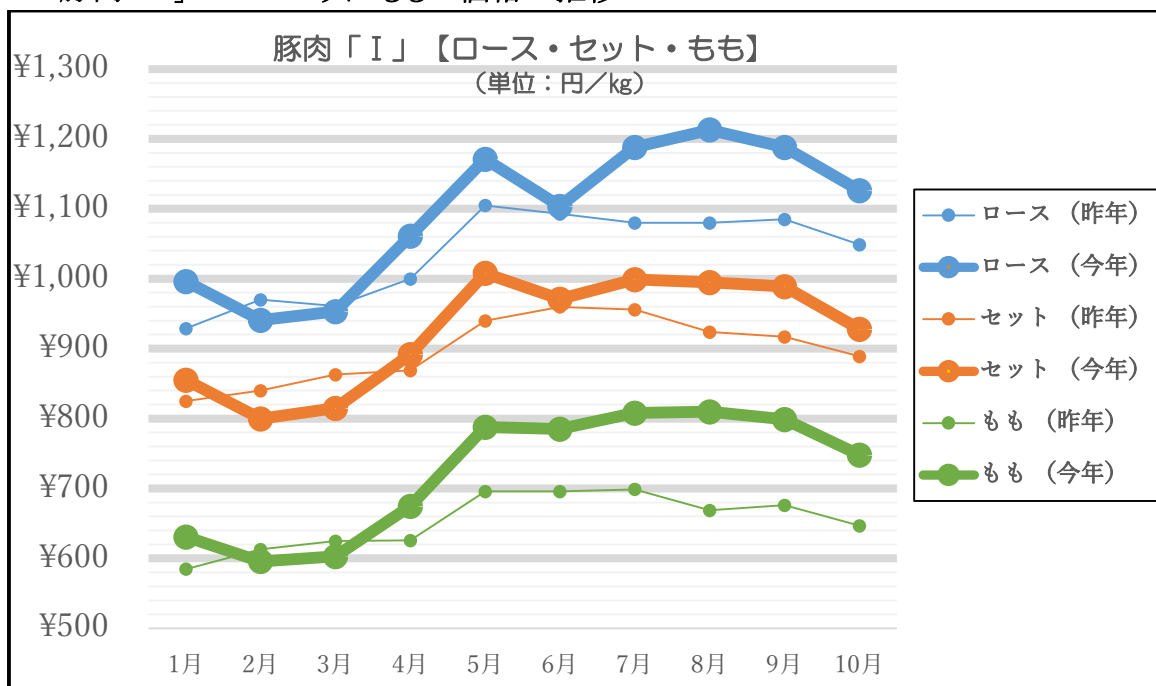
(単位：円/kg)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ロイン	昨年	4,968	4,734	4,860	4,968	4,971	5,033	5,036	5,170	5,330	5,084
	今年	5,076	4,956	4,644	4,145	3,456	3,186	3,172	3,475	3,618	3,644
セット	昨年	2,927	2,875	2,916	2,890	2,942	2,924	2,920	2,951	2,904	2,857
	今年	2,995	2,865	2,742	2,586	2,497	2,376	2,453	2,536	2,565	2,630
ももセット	昨年	2,665	2,538	2,538	2,592	2,643	2,614	2,592	2,592	2,646	2,646
	今年	2,636	2,452	2,430	2,268	2,268	2,206	2,268	2,334	2,474	2,593

出典：（公財）日本食肉流通センター「公表価格」より算出

2 豚部分肉価格(首都圏)

豚肉「I」ロース・セット・ももの価格の推移



出典：（公財）日本食肉流通センター「公表価格」より算出

牛部分肉価格と異なり、豚部分肉価格は全部位とも4月以降昨年を上回り、10月に至るまで継続しています。特に8月のももの価格は昨年同月比で120%を超え上昇率が一番高いですが、コロナ禍で学校の給食が8月に再開され、その材料に価格の安いももが提供されたことが反映されたためと考えられます。

これは食肉業界では、外出を控える家庭が増え、家庭内での消費が増えて豚肉を食べる機会が多くなったためと考えられています。

《豚肉「I」》

(単位：円/kg)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ロース	昨年	929	970	961	1,000	1,105	1,093	1,080	1,080	1,085	1,049
	今年	996	941	953	1,061	1,171	1,104	1,188	1,213	1,188	1,126
セット	昨年	825	840	863	869	940	960	956	924	917	889
	今年	855	800	815	892	1,008	971	999	995	989	928
もも	昨年	585	613	625	626	696	696	699	669	676	647
	今年	631	596	603	675	788	785	808	810	799	748

出典：（公財）日本食肉流通センター「公表価格」より算出

3 まとめ

今年1月に日本でコロナウイルス感染症患者在確認されて以降、インバウンド、
外食機会及び輸出などの減少により、食肉の消費形態及び価格が大きく変化し
ました。

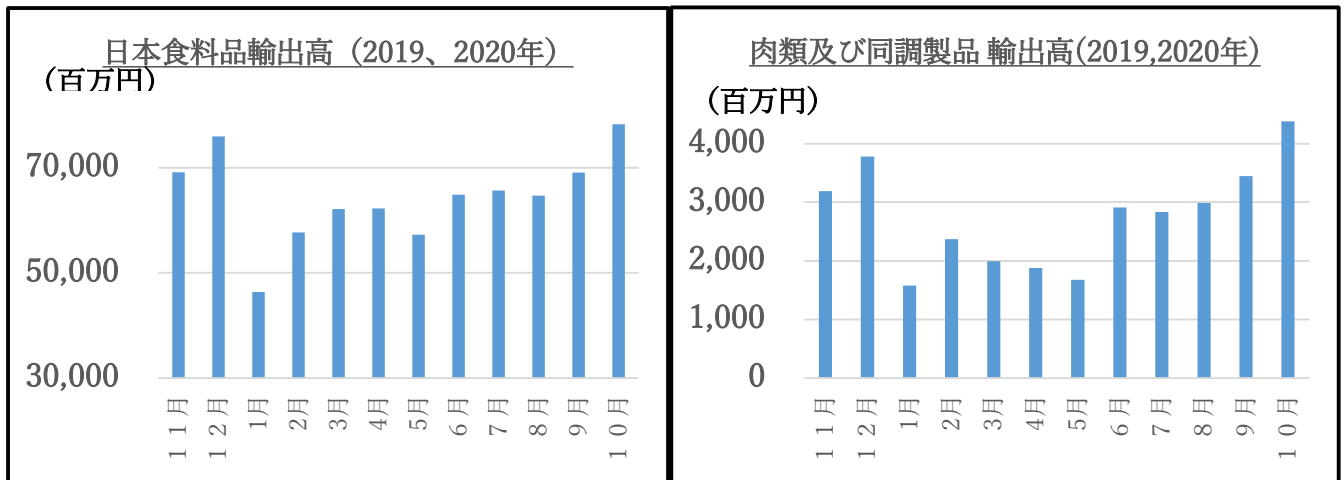
高価な和牛肉の需要減、豚肉への需要シフトがおり、外食が減少し家庭内
消費が増加したため、国産牛の高価格部位の大幅な価格下落がみられた一方、
豚部分肉価格は大幅に上昇しました。

牛肉消費を促進する政府の支援策や6月以降の牛肉輸出の増加などを受け、
国産の牛部分肉価格は概ね7月以降回復しつつありますが、依然として、10月で
も部分肉セット価格より高い部位の価格は昨年を下回ったままです。一方、国産
の豚部分肉価格は4月以降10月まで昨年を上回って推移しています。

C 牛肉輸出に対する新型コロナ感染拡大の影響について

1. 食料品輸出の動向について

ア 輸出金額の動向



出典：財務省「貿易統計」

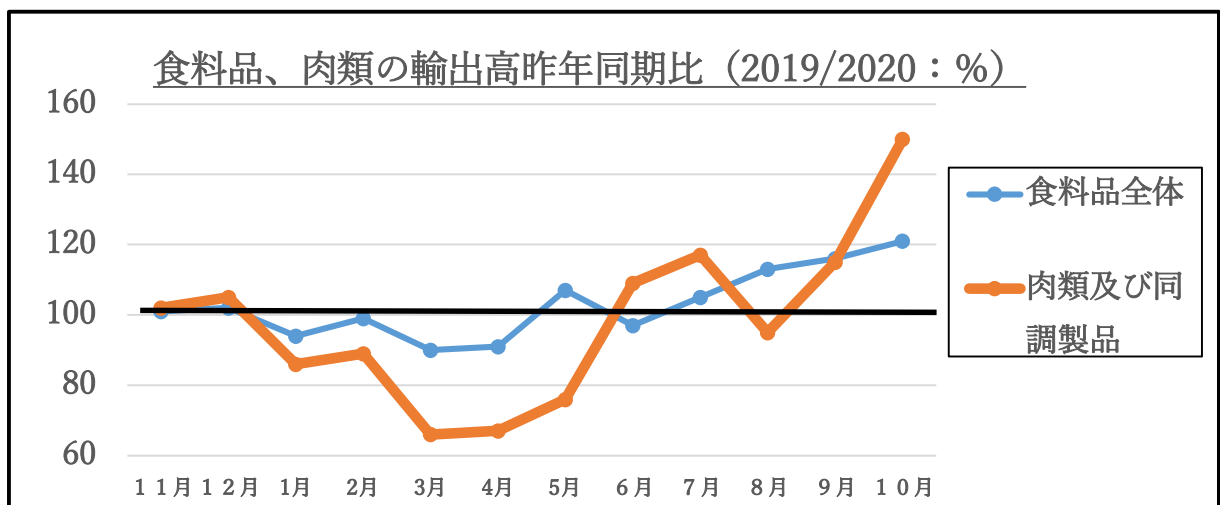
2019 年11月以降の日本の食料品と肉類及び同調製品の輸出高(金額)を表したのが上記のグラフです。

コロナウイルス感染拡大が世界各地で確認された1月には、食料品及び肉類の輸出高は落ち込みました。

輸出高は、食料品では2月以降増加し、5月にいったん減少しましたが、6月以降は増加傾向を示しています。

一方、肉類では、2月に増加したものの、5月まで減少を続けた後、6月以降は増加傾向を示しています。

イ 昨年同期比の動向



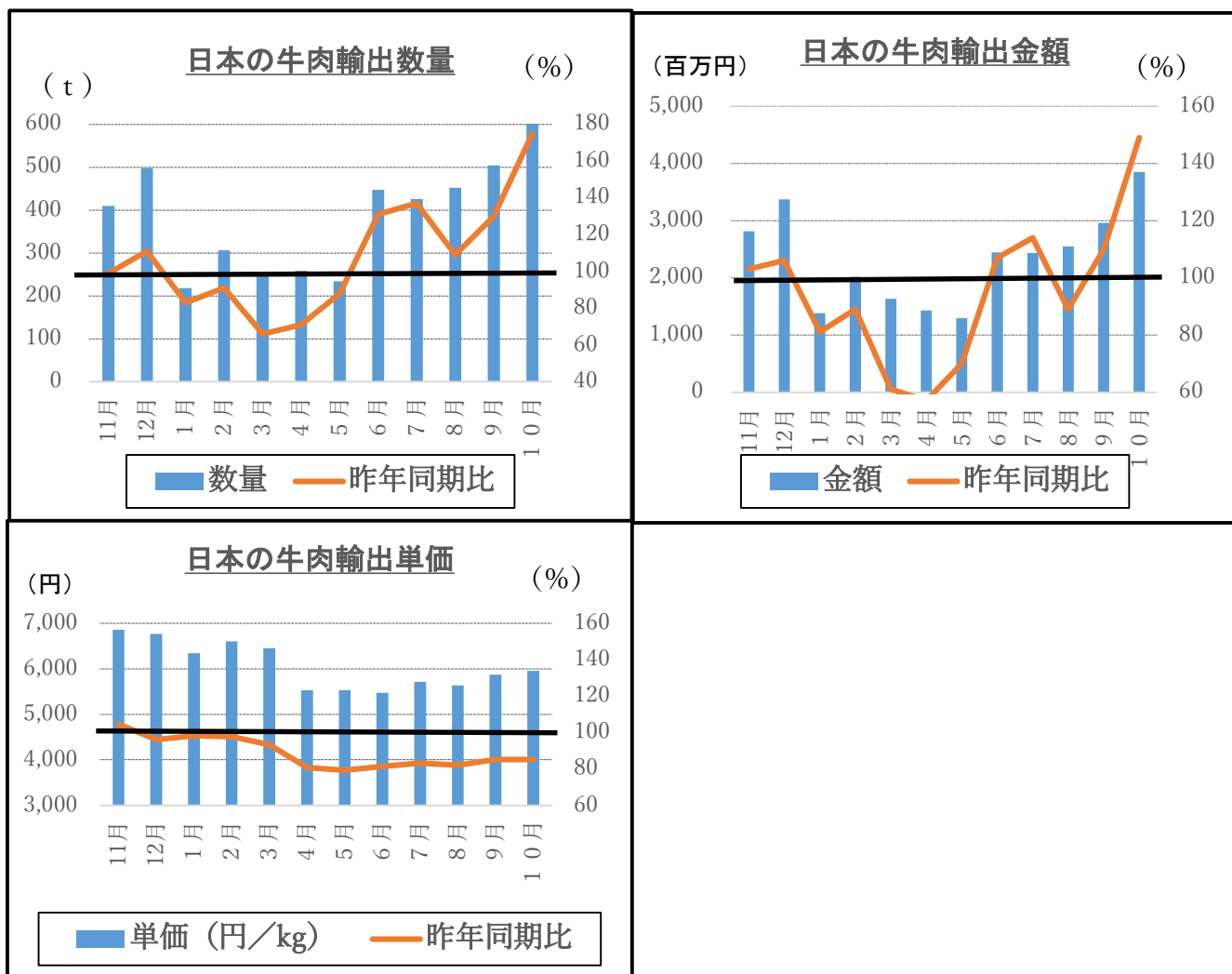
出典：財務省「貿易統計」より算出

輸出金額を昨年同期比でみると、食料品及び肉類とも1月には昨年を下回りました。食料品は1月から4月まで昨年を下回って推移しましたが、5月にいったん上回り6月に下回った後は、10月まで昨年を上回って推移しています。

肉類は、食料品を超える減少率が5月まで続きましたが、6月以降、8月を除いて
昨年を上回って推移しており、10月には食料品を超える増加率となっています。

2. 牛肉の輸出数量、金額および単価の推移

① 牛肉全体



出典：財務省「貿易統計」より算出

2019年11月以降、日本の牛肉輸出の数量、金額及び単価を表したのが上記のグラフです。
1月から5月まで、牛肉輸出の数量、金額とも去年同期比で減少しましたが、6月から
数量、金額とも増加傾向に転じました。特に数量ベースの増加が顕著です。

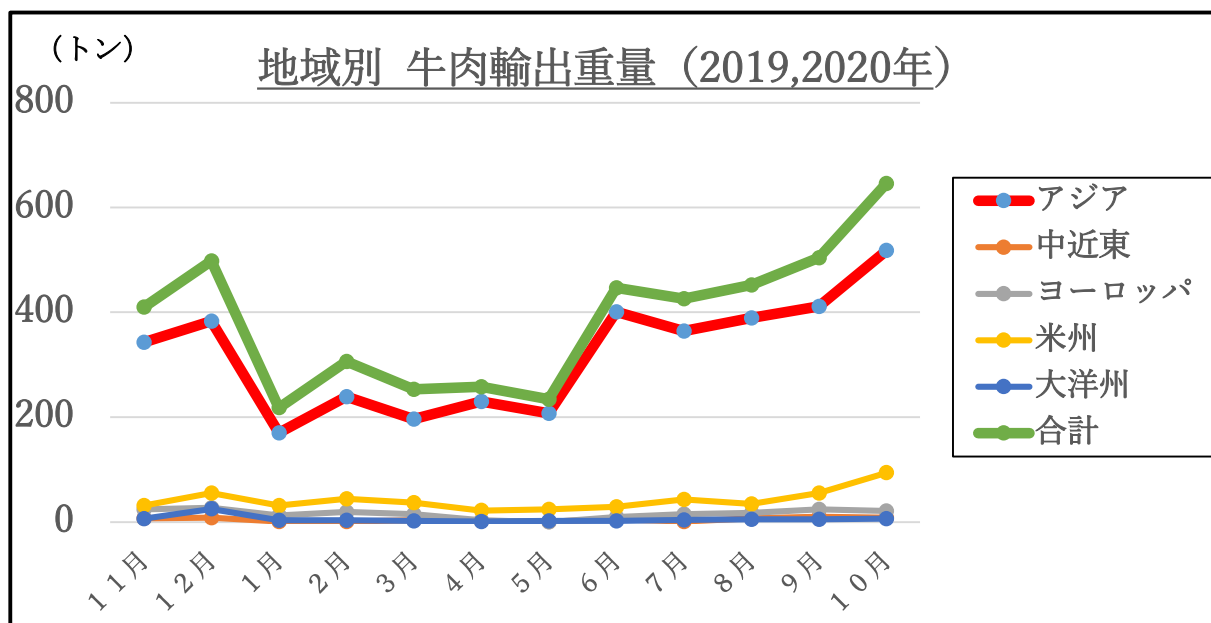
一方、輸出単価は昨年12月以降10月まで去年同期を下回った状態で推移していますが、
実額でみると6月を底として上昇傾向にあります。

《牛肉全体》

	11月	12月	2019年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	1~10
数量(トン)	410	498	4,339	218	306	253	258	234	447	426	452	504	646	3,743
(対前年比)	(99)	(111)	(122)	(85)	(91)	(66)	(71)	(88)	(131)	(137)	(109)	(130)	(175)	(109)
金額(百万円)	2,813	3,368	29,673	1,382	2,018	1,632	1,425	1,294	2,443	2,431	2,546	2,959	3,847	21,977
(対前年比)	(103)	(106)	(120)	(83)	(89)	(61)	(57)	(70)	(107)	(114)	(89)	(110)	(149)	(94)
単価(円/kg)	6,854	6,767	6,838	6,342	6,604	6,451	5,530	5,526	5,470	5,708	5,630	5,867	5,954	5,871
(対前年比)	(105)	(96)	(98)	(98)	(98)	(93)	(81)	(79)	(81)	(83)	(82)	(85)	(85)	(86)

出典：財務省「貿易統計」より算出

② 輸出先地域別の牛肉数量



出典：財務省「貿易統計」より算出

2019年11月以降、日本の牛肉輸出数量を輸出先地域別に表したのが上記のグラフです。

1月に数量は急激に減少しましたが、6月以降は増勢に転じています。

牛肉の輸出数量の地域別の割合では、直近ではアジア地域が8割超を占めています。

アジア向けの輸出数量が顕著に増加したことにより輸出全体が増加していることが分かります。

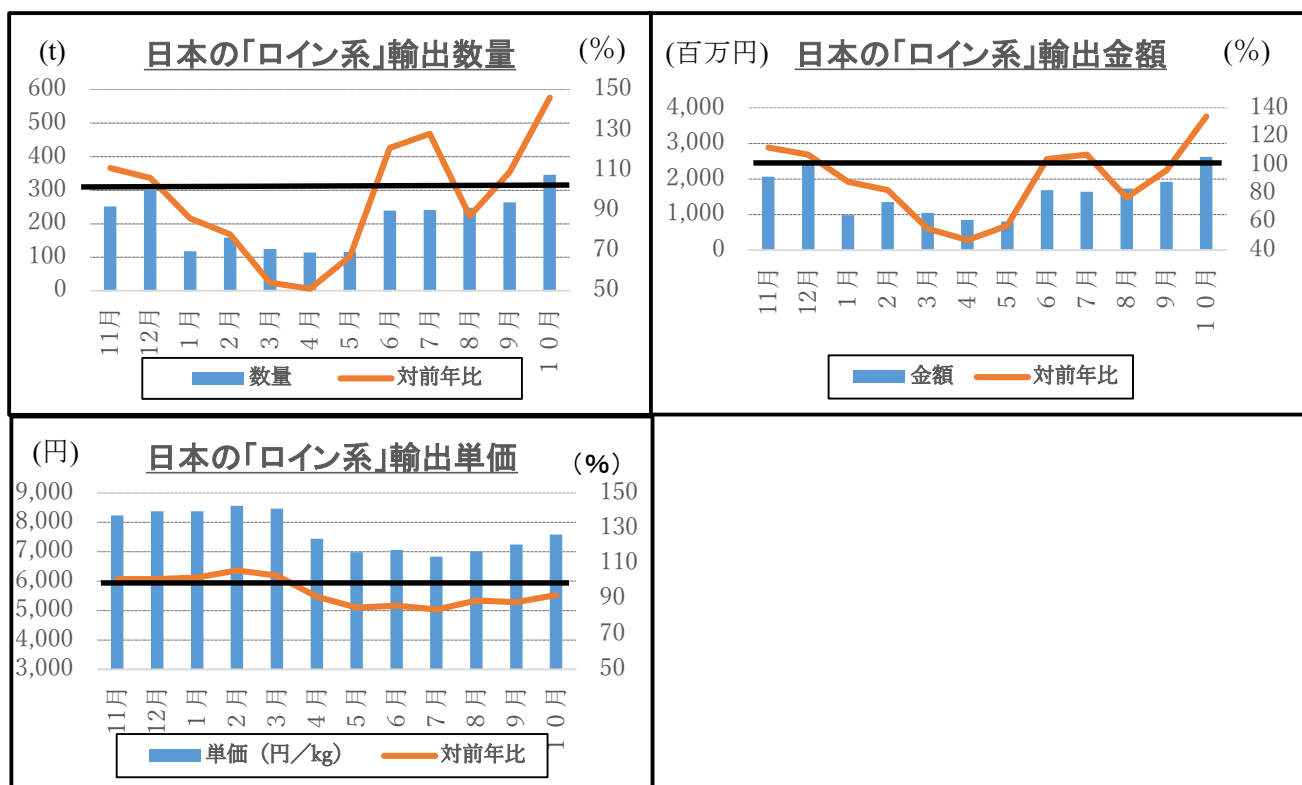
《地域別》

	11月	12月	2019年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	1~10
アジア	343	383	3,533	170	239	196	230	207	401	364	389	411	518	3,126
中近東	7	8	76	1	1	3	2	1	5	1	7	10	8	37
ヨーロッパ	24	27	219	12	19	15	3	0	9	15	17	24	21	136
米州	31	55	449	31	44	37	22	24	29	43	34	55	94	412
大洋州	6	25	63	3	3	2	1	2	2	4	5	5	6	31
合計	410	498	4,339	218	306	253	258	234	447	426	452	504	646	3,743

(kg)

出典：財務省「貿易統計」より算出。

③ 「ロイン系」牛肉の輸出数量等



出典：財務省「貿易統計」より算出

2019年11月以降、牛肉輸出数量の5割超を占める「ロイン系」の輸出の数量、金額及び単価を表したのが上記のグラフです。

輸出先の各国でコロナウイルスの感染が拡大して市民の外出が制限される中、外食需要が極端に少なくなり、レストラン等で使用されるロイン系牛肉を含む「肉類」の需要が減少しました。

高価格部位である「ロイン系」牛肉は、牛肉全体と同様、1月から数量、金額ともに減少しており、2月から5月にかけては、ロイン系の輸出重量の減少率の方が牛肉全体を上回っています。「ロイン系」は、牛肉の輸出金額全体に占める割合も高く、「ロイン系」の動向が、牛肉全体の動向に影響を与えています。ロイン系の輸出が回復・増加すると牛肉全体の輸出も回復・増加しています。

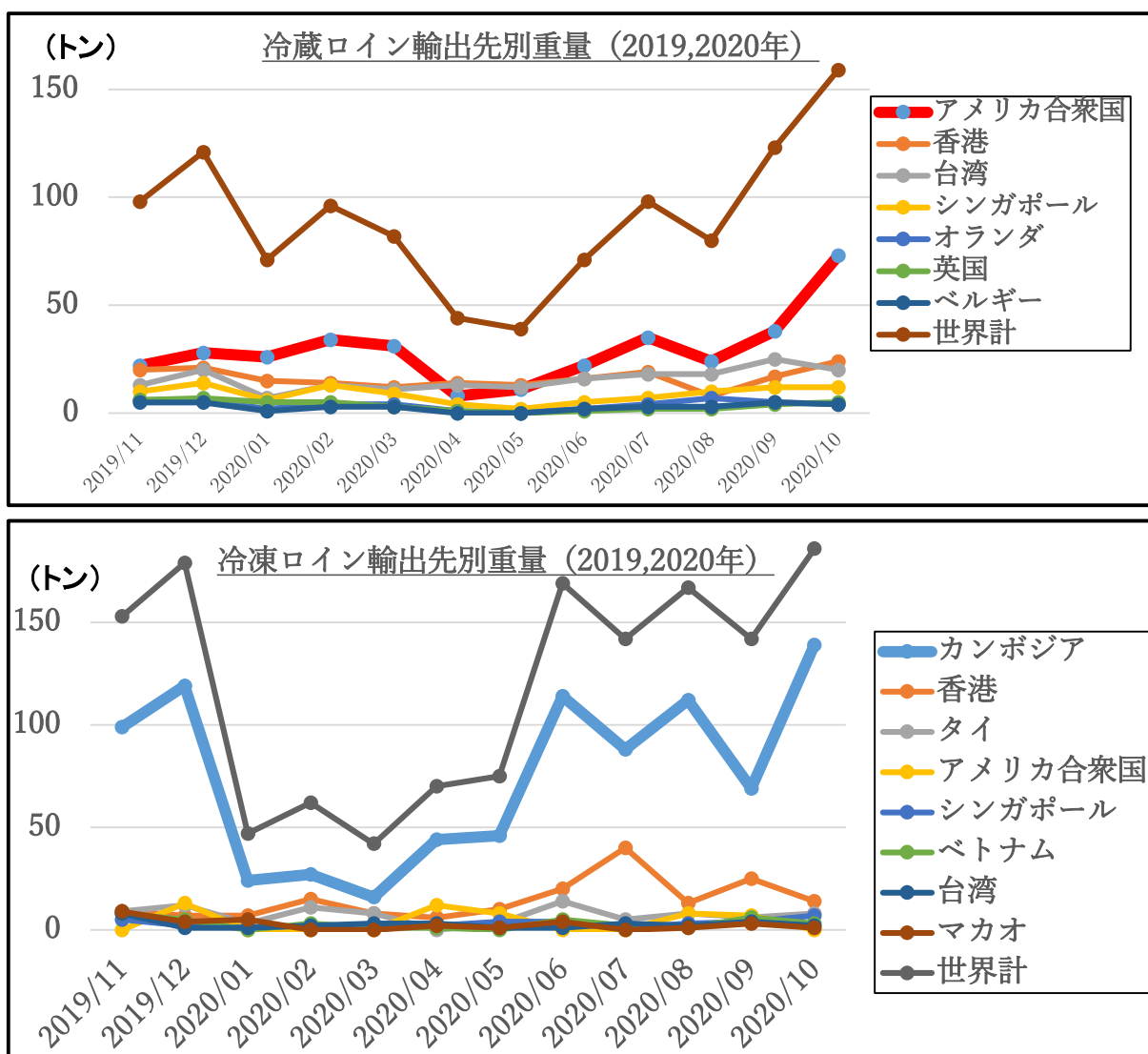
なお、単価の動向は、輸出数量及び金額の動向と異なり、本年3月まで昨年を超えていましたが、4月以降は昨年を下回って推移していますが、実額でみると7月を底として上昇傾向にあります。

《「ロイン系」》

	11月	12月	2019年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	1~10
数量(トン)	251	300	2,664	117	158	124	114	115	239	241	247	264	346	1,964
(対前年比)	(111)	(106)	(132)	(86)	(78)	(54)	(51)	(67)	(121)	(128)	(87)	(109)	(146)	(93)
金額(百万円)	2,065	2,511	21,764	983	1,348	1,044	849	801	1,687	1,642	1,727	1,914	2,621	14,617
(対前年比)	(112)	(107)	(130)	(88)	(82)	(55)	(47)	(57)	(104)	(107)	(77)	(96)	(134)	(85)
単価(円/kg)	8,228	8,372	8,169	8,374	8,555	8,456	7,442	6,981	7,053	6,827	6,998	7,242	7,584	7,443
(対前年比)	(101)	(101)	(99)	(102)	(106)	(103)	(91)	(85)	(86)	(84)	(89)	(88)	(92)	(92)

出典：財務省「貿易統計」より算出

④ 「ロイン系」牛肉の冷蔵・冷凍別輸出先別数量



出典：財務省「貿易統計」より算出

2019年11月以降、牛肉輸出数量の5割強を占める「ロイン系」牛肉の冷蔵、冷凍別、輸出先別の数量を表したのが上記のグラフです。

冷蔵では、米国が輸出先別数量の第一位となっており、全体の2割から4割を占めています。冷凍では、カンボジアが第一位で、全体の6割から7割を占めています。冷蔵、冷凍それぞれで米国、カンボジアの輸出量が増加したことで、全体の数量が増加していったことが分かります。

《冷蔵ロイン》

(トン)

	2019/11	2019/12	2019計	2020/01	2020/02	2020/03	2020/04	2020/05	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10	1~10
アメリカ合衆国	22	28	306	26	34	31	8	11	22	35	24	38	73	302
香港	20	21	222	15	14	12	14	13	16	19	8	17	24	152
台湾	13	20	166	7	13	11	13	12	16	18	18	25	20	153
シンガポール	10	14	128	6	13	9	4	2	5	7	10	12	12	80
オランダ	6	6	50	2	4	4	1	0	2	4	7	5	4	33
英国	6	7	59	5	5	3	1	0	1	2	2	4	5	28
ベルギー	5	5	29	1	3	3	0	0	2	3	3	5	4	24
世界計	98	121	1,112	71	96	82	44	39	71	98	80	123	159	863

出典：財務省「貿易統計」より算出

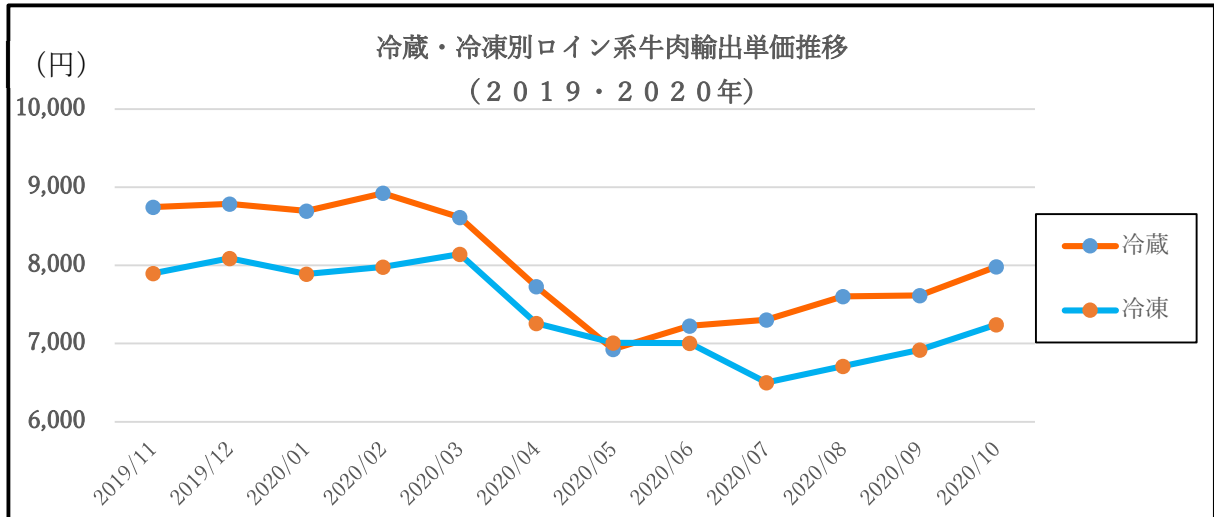
《冷凍ロイン》

(トン)

	2019/11	2019/12	2019計	2020/01	2020/02	2020/03	2020/04	2020/05	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10	1～10
カンボジア	99	119	986	24	27	16	44	46	114	88	112	69	139	679
香港	9	7	158	7	15	8	6	10	20	40	13	25	14	158
タイ	9	12	105	3	11	8	0	3	14	5	8	6	8	66
アメリカ合衆国	0	13	28	0	0	0	12	8	0	0	8	7	0	35
シンガポール	5	2	25	1	2	1	2	4	4	1	3	4	7	29
ベトナム	8	5	31	0	3	1	1	0	5	2	1	6	3	22
台湾	8	1	49	1	2	3	3	1	1	3	2	4	2	22
マカオ	9	4	56	5	0	0	2	1	4	0	1	3	1	17
世界計	153	179	1,552	47	62	42	70	75	169	142	167	142	186	1,102

出典：財務省「貿易統計」より算出

⑤「ロイン系」牛肉の冷蔵・冷凍別輸出単価の推移



出典：財務省「貿易統計」より算出

2019年11月以降、「ロイン系」牛肉の冷蔵、冷凍別の輸出単価の推移を表したのが上記のグラフです。

冷蔵の輸出単価は3月から5月まで下降を続け、5月を底にして上昇に転じました。

冷凍の輸出単価は4月から7月まで下降を続け、7月を底として上昇に転じました。

(ロイン系牛肉の輸出単価と和牛「4」ロイン系価格の動向)

2019年平均の冷蔵のロイン系牛肉の輸出単価は8,576円/kg と和牛「4」ロインセット価格7,128円/kg の120%超でした。(参考)を参照)

2020年1月以降、国内のロイン価格は昨年を下回って推移し、3月に急落しその後回復しつつあります。一方、輸出単価は3月まで昨年を上回って推移し、4月以降昨年を下回り7月を底として回復しつつありますが、依然として下回ったままです。

このような状況にいたったのは、価格を決めた契約時点から実際の輸出に至るまでの時間の経過を反映しているためでしょう。

2019年全体で国内の和牛ロインの13%が輸出されたと推定される中で、輸出量が今年6月以降増加に転じ、Bの1の②と、Cの③の表を比較すれば、輸出単価の減少率が国内のロイン価格の減少率より小さいことは、輸出が国内の高価格部位の需給に好影響を与えていると考えます。

(参考) (公財) 日本食肉流通センター「食肉流通実態調査事業報告書Ⅱ」(2020年)

P.146 図2 「和牛の輸出における冷蔵品と冷凍品の価格差」

以 上